



大好き！絵本

初瀬 恵美



『みんなでたのしいクリスマス』

さく:トミー・デ・パオラ
やく:みねじま ともこ
出版Forest Books

12月に入り、イエス様のお誕生日(クリスマス)が近づいてきました。今、保育園では、初めてのクリスマスのお話をお家の方や地域の方に伝える劇(聖劇『ようこそ～イエスさま～』)に子どもたちがとりくんでいます。

今月は、保育園の子どもたちと同じように、クリスマスの劇に取り組んでいる子どもたちのお話、『みんなでたのしいクリスマス』の絵本を紹介します。

主人公はお話をする役(ナレーター役)の男の子です。男の子の視点を含めつつ、初めてのクリスマスのお話が描かれた絵本です。男の子は、ナレーターということで、劇がはじまるとの第一声は「みなさん、ようこそ おいでくださ

いました。これから、ずっとずっとむかし、せかいで さいしょのクリスマスにうまれた あかちゃんについてのげきを おみせいたします。それでは、はじまり はじまり」とのあいさつからスタートしました。そして、そこからは、イエス様がお生まれになられた降誕劇が展開されてゆくのです。

劇の最後は赤ちゃんイエス様、マリア様、ヨセフ様、羊飼、天使、三人の博士皆が勢ぞろいします。そして「わたしたちが じぶんの たんじょうびを おいわいするように、クリスマスは イエスさまが おうまれになったことを よろこぶ ひ なのです。そう、これが せかいで さいしょの クリスマスのおはなしです。」と語られて幕が閉じていきます。

作者のトミー・デ・パオラ氏はアメリカの方なので、いろいろな人種の登場人物を描いています。髪の毛や肌の色が違う子どもたちが共存している絵をみるとあたたかい気持ちになります。

保育園の聖劇では「イエスさまが生まれたのは、世界中の人たちがみんな仲良く幸せになるためです。」とナレーターで語っています。

イエス様がお生まれになられて、2000年以上経ちましたが、いまだに、世界から戦争がなくなりません。私たちの住む日本も、憲法が改正されようとしていて、このままだと、戦争を推進してゆくのではないかと心配になります。クリスマスやクリスマスの絵本を通して、イエス様の誕生のお話と平和やみんなの幸せについて考えるきっかけを作っただけだったらと思い、今月はこの絵本をご紹介させていただきました。



誕生日おめでとう

